

火災に強い地域をつくる

7 町並みの特徴に応じた火災に対する防災的特質の提示

地域固有の歴史的資産を中核とした地域づくりのためには、想定されるリスクに対する安全性の確保も必要である。市街地における防災は、火災・地震・風水害等と検討すべき項目が多岐に渡り、これまでは見られなかった異常気象や新種の災害が顕在してきた上、ハード面では建造物・工作物・消防設備といった防災的要素や、建物単体から市街地規模までが対象となること、ソフト面では住民の体制から広域消防の活動といった多種多様な要素を検討せねばならないこと等から、地域ごとに異なる様々な災害要因にあわせて、有効性の高い災害対策の基本方針を構築するのが難しいという共通の課題があった。そこで、火災は、全国の伝建地区および一般市街地にも共通する災害で、広域災害へ発展しやすいことに加え、建造物の消滅に直接繋がることから、火災に焦点をあて、歴史的町並みの特徴に応じた防災的特質の提示を行う。

歴史的町並みにおいて防災対策を計画する際には、町並みの持つ災害に対するポテンシャルを評価し、その特質に基づいた防災対策を計画することが重要である。歴史的町並みに限らず一般市街地でも全国的に共通して身近な災害である火災に着目すると、歴史的町並みにおける防災的特質は、火災の早期発見・初期消火による火災の早期鎮圧といった火災被害の進行段階と関係する市街地構成要素により大別することができると言える。また、より綿密には、火災が初期で消火されずに市街地火災となった時の延焼様態を把握することもその火災被害の進行段階に含めることが可能であり、体系的には、早期発見、初期消火、延焼様態の把握の3段階の防災対策に分けて歴史的町並みにおける防災的特質を把握することが可能である。以上に挙げた防災対策は、それぞれ歴史的町並みと不可分な要素が多い為、歴史的町並みの特徴に応じた火災に対する防災的特質は、防災対策の要素毎に以降のように記すことが出来る。

～早期発見と関係する町並みの特徴～

一般に歴史的町並みでは、出火の早期発見に資する自動火災報知器(以下、「自火報」と称す)の設置普及は停滞している。また、高齢者のみの世帯や空き家の家屋は増える傾向にあり、出火を早期に発見する為の基礎地盤は崩壊しつつあると言える。一方で、以下に挙げられる地区では、早期発見に対して良好な地盤が形成されている。

■観光地

歴史的町並みの観光開発は、治安の低下を引き起こす危険性がある一方で、地区内人口の維持や共同体の活性化に寄与し、火災予防や出火の早期発見に良好な地盤が築かれる場合がある。また、観光等による地域産業で定住者が多く確保された町並み(写真1)では、人通りと人目が多いため放火され難い傾向がある。

■住民による自主防災会の活動が実施されている地区

防災会等が中心となって防災活動が行われている地区(写真2)では、活動の一環として住民による防災訓練やパトロールが日常的に行われており、火災予防や出火発見に対する地盤形成が進んでいる。

■行政による施策が実施されている地区

高山市の2伝建地区のような先進的な防災計画が実施されている地区では、火災覚知と報知に寄与する火災感知システム(写真3、4)を整備し、初期の段階で火災を発見し、消火・避難を行う等の施策が行われている。



写真1 観光開発の進む地区(奈良井)



写真2 消防クラブの結成(大内宿)



写真3 火災感知システムの導入(主計町)



写真4 火災感知システムの導入(高山市下二之町大新町)